

# 令和8年度当初予算の概要

## 予算編成の基本方針と予算総額

国においては、名目GDPが600兆円を超え、賃上げ率も2年連続で5%を上回るなど「デフレ・コストカット型経済」から、新たな「成長型経済」に移行する段階まで来ているものの、物価上昇による個人消費の伸び悩みや世界経済の先行きへの不透明感、少子化や地方の衰退といった早急に克服すべき課題があります。こうした現状に対し、生活の安全保障・物価高への対応、危機管理投資・成長投資による「強い経済」の実現などを柱とする「強い経済」を実現する総合経済対策を策定し、実行されているところです。令和8年度予算については、令和7年度補正予算と一体として、広く国民に恩恵が行き渡る予算編成を行い、「強い経済」の構築に向けた重要施策に対して必要な予算・税制上の措置等を確実に講じ、予算等を重点化することとされました。

地方においては、物価高が続くとともに社会保障関係費や人件費の増加等が見込まれる中、地方財政の健全化、物価高・官公需の価格転嫁への対応、いわゆる教育無償化への対応、防災・減災対策の推進、公営企業の経営基盤の強化等の様々な行政課題に対応できるよう地方財政対策を講じ、安定的な財政運営を行うために必要となる地方交付税等の一般財源総額について、令和7年度を大幅に上回る72.0兆円を確保することとされました。

本市の予算編成にあたっては、限られた財源を有効に活用する観点から、すべての事業の成果を厳しく検証した上で積極的な見直しを行い、「諫早市の新しい都市計画」の実現、子育て支援や教育環境の更なる充実、「長崎ミュージックフェスマラソン」の初開催など、市民が未来へ希望を抱き、夢が叶うまちとなるよう積極的に取り組む、輝く未来へ翔け出すチャレンジ予算を編成しました。

当初予算総額は、

一般会計 70,320,000千円

特別会計 32,860,200千円 となり、

令和7年度の当初予算と比較しますと

一般会計 1,940,000千円（2.8%）の増

特別会計 110,600千円（0.3%）の減であり

合計では、1,829,400千円（1.8%）の増となります。